

〈教育相談〉

# シンナー等乱用生徒の背景とその指導及び対策

教育相談部

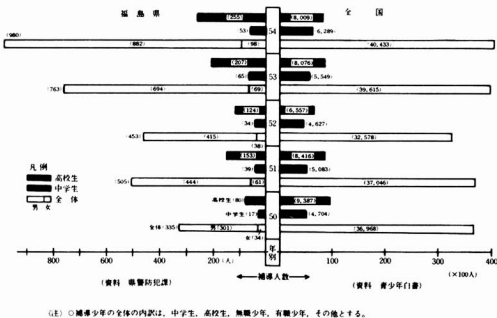
渡 辺 憲 一

## 1. はじめに

図1は、シンナー等乱用少年の過去5年間の補導状況である。この図から福島県の補導人数を全国と比較し、その推移を見てみると、かなりの勢いで増加していることがわかる。特に、中高校生の54年の補導人数は、中高とも50年の約3倍になっている。さらに、全体に対する高校生が占める割合を、過去5年間の平均をとり、比較してみると、全国の21.7%に対し27.0%とかなり大きく、このことから、本県では、特に高校生への汚染が進んでいるものと考えられる。

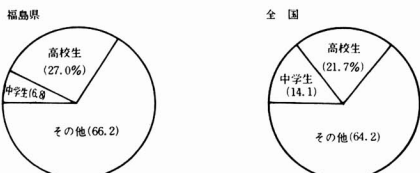
当センターにも昨年にはなかった高校生のシンナー等乱用の相談が7件もあり、憂慮される事態ではなかろうかと考える。こういった状況にかんがみ、シンナー等乱用による一般的徴候と、今年来所した相談事例を基に、シンナー等乱用生徒の背景と指導及び今後の対策について、述べてみたい。

図1 シンナー等乱用少年補導状況



注) ① 補導少年の全体の内訳は、中学生、高校生、無職少年、有職少年、その他とする。

図2 中高校生の全体に対して占める割合 5年間の平均 (S 50~S 54)



注) その他: 無職・有職少年, その他とする。

## 2. シンナー等乱用少年の類型

シンナー等乱用少年の動機・場所・吸引方法及び身体的症状等を見ると、友だちに誘われてというのが多く、共かせぎで留守がちな家とか、離れ部屋を持った友だちの家に集まり、3~4人でビニル袋やジュースかん等に入れて吸引する方法がとられている。初めての吸引では、はき気を感じる者が多く、回を重ねると次第に不快感が消えていく。

シンナー等の乱用の進み程度を、吸引回数・頻度動機及び関連非行等から、表1のような三段階に類型化を図ることができ、それぞれ指導や治療の方法も異なるのである。また、状況いかんによっては、単純模倣型→非行促進型→嗜癖型に進行することが多い。

表1 シンナー等乱用少年の類型

型	特 徴	指 導
単純模倣型(初期)	○吸引期間…1ヵ月以上1年以内 ○吸引頻度…月1~2回 ○動 機…好奇心、友人との交際手段 (一過性の場合が多い) 集団でやる場合が多い。 ○性 格…特徴なし ○家庭環境…特徴なし	○有害性を理解させる。 ○映画・スライド 初回乱用時の不快感をサポート ○興味を他のものに転換 ・余暇の利用 ・趣味の再発見 ○交友関係の調整 ○監視のチェックの強化
非行促進型(中期)	○吸引期間…1年以上~1年半 ○吸引頻度…週1~2回 ○動 機…仲間との同一化・模倣 欲求不満、暇つぶし (以前より何らかの非行あり) 5~6人でやる場合が多い。 ○性 格…反社会的未成熟 自信、意欲及び忍耐力の欠如 怠惰・付和雷同 夜遊び、社会より脱落 ○家庭環境…放任・無関心・過保護 ○その他…不良交友(悪友・喫煙等) 不純異性交遊	○自己の認識の甘さ・性格の弱さの自覚 ○映画・スライド 肉体が傷されるという直接有害性を強調するほうが効果的。 ○交友関係の調整
嗜癖型(常習)	○吸引期間…1年半以上 ○吸引頻度…隔日、毎日(習慣的) ○動 機…幻想の世界を求めて仮の安定を得ようとする乱用 (心理的依存が見られる) 単独で吸引するのが多い。 ○性 格…神経症的 吸引時の快感が忘れられず、自分でやめようと思っても、意志が弱いので叱られてもやっつてしまい、癖になりやすい。 ○家庭環境…幼少期から思春期にかけて両親の不和 離別、父の頑固、支配的、母の口やまかしく干渉的、過保護	○生活態度の改善—精神的自立 ○カウンセリング ○催眠療法— ○矯正教育<少年院 教護院 ○隔離療法—精神病院入院

参考文献 ・日本の少年非行 大成出版  
・月刊生徒指導(80,5増) 学事出版  
・若い非行 学陽書房

## 3. 相談事例 (背景とその指導)

表2は、当センターに来所した高校生2名の事例を簡単にまとめたものである。